

コガマ

Typha orientalis Presl

ガマ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

従来も稀産の種であるが、著しく減少している。(現況:R-)

形態

類似種はヒメガマとガマである。前者は花序の雄花群と雌花群の間に花の着かない部分があるが本種とガマにはそのような部分はない。本種はガマと比較して小型である。すなわち、ガマは草丈1.5~2m、葉の幅1~2cm、雌花群の長さが10~20cmであるのに対して、本種ではそれぞれ1~1.5m、0.5~1cm、6~10cmである。雌花の心皮は1個で、果実では花柄が長く伸び、花柄には長い毛がある。雄花には2、3個の雄蕊だけで、花柄には長い毛がある。本種は成長の悪いガマと混同される場合があるが、区別点は本種の葉の細さと花粉が4集粒とならず、単粒であることである。

国内分布

本州、四国、九州。東アジアの温帯~熱帯に広く分布する。

県内分布

かつては能登全域、南加賀区(手取川流域)に分布。近年の調査では4産地の報告があり、能登全域(舳倉島・七ツ島を除く)と南加賀区の分布が確認された。

生態など

多年生抽水植物。花期は7~8月。

生育環境

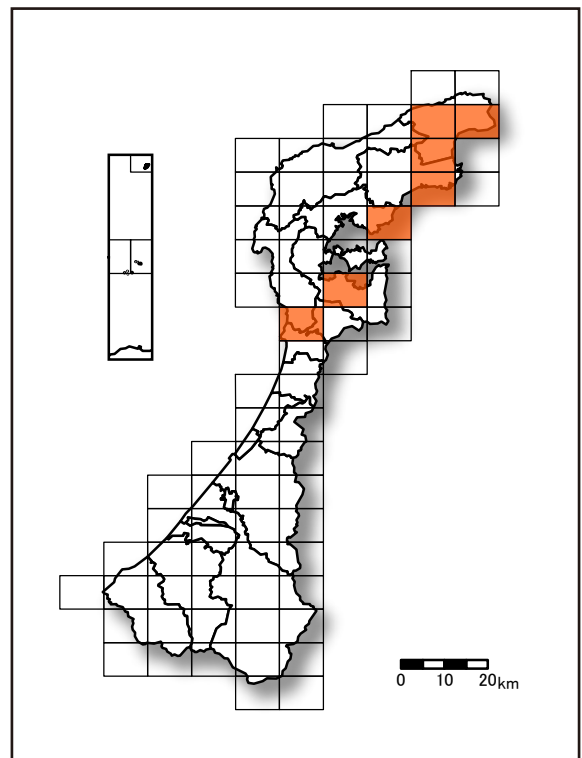
湖沼、溜池、水路、休耕田など。

危険要因

湿地開発、土地造成、道路工事。



白井伸和・2003年8月16日・金沢市



県内の分布